

ニホンオオカミ雑稿

岩手県立博物館 藤井 忠志

私が現在、勤務している岩手県立博物館には、1枚のニホンオオカミ (*Canis hodophilax*) と言われる毛皮が寄託されている。寄託者は二戸市在住の黒沢修一氏であるが、この毛皮がニホンオオカミであることを示す記録は存在しない。ただ黒沢氏の聞きとりから、1910年(明治43年)黒沢家の祖父で毛皮商であった黒沢繁左衛門氏(明治12年～昭和6年)が地元の猟師である大端福治氏(明治9年～昭和16年)から購入したものである。なめしの状態は良好であるが4肢がなく尾もないのが残念である。毛皮や乳首の状態から、授乳中のメス成獣であり、散弾で撃たれた痕跡がある。従って、捕獲されたのは夏期であり、当然ながら巣穴には何頭かの幼獣もいたと推測される。

この毛皮について、日本を代表するニホンオオカミ研究者の今泉吉典氏は、耳介の前に長い毛の頬髭がある(ヤマイヌにはこの頬髭がない?)こと、吻端から眼までの距離と眼から耳孔までの距離が手持ちの和歌山大学のオオカミ頭骨の計算値にはほぼ一致したことを根拠に「ニホンオオカミに間違いない」とテレビ岩手の取材で断言されていたが、毛の特徴や計測結果がたまたま合致・近似していただけのことも解釈できる。いずれ重要なのは、時代が進み、科学的手法がより高度になる時代が近い将来、訪れるだろうことを期待して、この標本を維持・管理しながら、資料的価値を高めるということであり、そのことが資料の存在する県立博物館としての使命と認識している。

また、ニホンオオカミのタイプ標本(模式標本)には、オランダのナチュラーリス国立自然史博物館のものが知られているが、新種記載の際には、命名者が唯一の標本を選んでホロタイプ(完模式)に指定する

必要がある。しかしテミンクは剥製と頭骨2本、そして骨格標本をタイプ標本としたことから、動物命名規約上の問題に発展することも示唆されている(大石2004)。

ニホンオオカミには、様々で複雑な問題や混乱の他に、分類学上からの問題もある。独立種としてのニホンオオカミが果たして存在していたかどうか?という根幹に関わる問題である。このように謎が多い理由として、現存する剥製標本の絶対数が極小数であることにある。具体的に列挙するならば、日本国内に3体、海外に2体の計5体しか現存せずそれらすべてが薬品処理されていること、イヌもニホンオオカミもイヌ科イヌ属 (*Canis*) であること、特定できるニホンオオカミの遺伝子情報がないことなどがあげられる。つまりいろいろな種や品種で入り交っているために、mt. DNAの塩基配列の分析でもイヌとオオカミははっきり分けられるものではない(VILA et al. 1997)という現時点での結論である。さらに、イヌとオオカミは、お互いの子どもを作ることは可能で、その子ども(F1)もまた妊娠が可能で(茂原2007)1代限りではないことなど、生物学的な種としての定義からはずれ、別種にするのは困難な現状にある。

しかし2003年1月、アメロゲニンと呼ばれる歯のエナメル質のタンパク質をつくる遺伝子の一部の塩基配列が、ラブラドルレトリバー種のイヌやモンゴル産オオカミとも異なることが判明し、アミノ酸配列の差異を根拠に独立種の可能性もあることが示唆されている。これまで未解決だったニホンオオカミの分類学的視点に一縷の望みを与える明るい情報である。

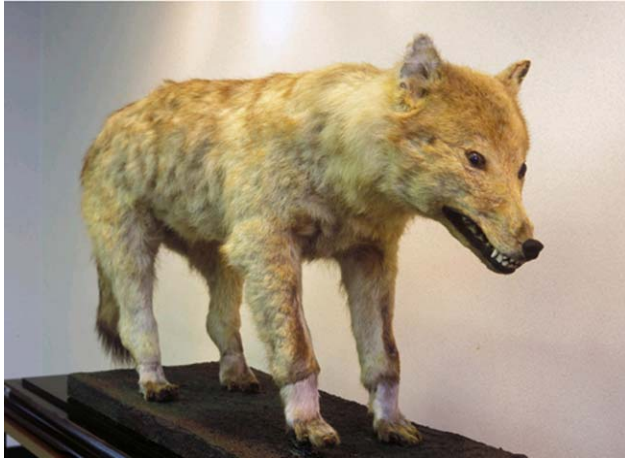
— 日本国内の剥製標本 —

明治時代初期に福島県で捕獲された個体

国立科学博物館所蔵



1881年に東京大学が岩手県の業者から購入した雌のオオカミ
東京大学大学院農学生命科学科所蔵



1904年頃、和歌山・奈良県境に近い大台山系で捕獲されたオスの成獣
和歌山大学所蔵



さらに、ニホンオオカミが独立種か否か？という長年の課題解決のためには、二戸地区にニホンオオカミをまとめて埋葬したと言われる地があり、その場所もある程度特定できることから、発掘作業に着手するのが当館の役割かとも、勝手に思いこんでいる。100年以上経過し、酸性土壌であることから、肉片はもちろん骨格等は剝離・分解されているかもしれないが、犬歯などの歯は十分残存していると考えられ、前述したアメロゲニンの塩基配列から、信頼度の高い遺伝子情報やデータが抽出できるかもしれない。

余談:私がこうして柴犬100号に投稿することになったのは、このオオカミの毛皮？の詳細を知る必要性に迫られ、黒沢氏から事務局長の五味氏を紹介されたことから始まる。今では、何でも相談できる良き

理解者・五味氏というのが柴犬研究会事務局長に対する率直な感想ではあるが、柴犬研究会の新しい世代には、ニホンオオカミと柴犬のルーツをこれまで以上に徹底して調査・研究して欲しいと願っている。

文 献

大石雅之 2004 ニホンオオカミの謎にふれる 岩手県立博物館だより No. 103

茂原信生2007 形から探るーイヌ 生物科学第58号第3巻 :130-129 農文協, 東京.

VILA, C. et al. 1997 Science276:1687-1689.